

井の頭公園の一角にあるジブリ

美術館は、季節を通して様々な植物を楽しむことができます。隣接する西園では、今年も早咲きの河津桜をはじめ幾種類かの桜が時期をずらしてきれいに咲いていました。桜が散ると、今度は青葉の季節です。緑の葉が目にはやすく、木や水の匂い、濃いむっとする空気、小さな生き物の気配もより感じられるようになってきました。玉川上水沿いの遊歩道や井の頭公園など、散策するのにぴったりの場所が近くにありますが、井の頭公園内にある自然文化園水生植物園は特におすすめです。井の頭池のほとりにあるこの水生植物園には、魚類、両生類、水生昆虫、植物など淡水の水辺の生き物の他、カモ類やサギ類など水辺に住む水鳥が展示されています。ここでは美術館オリジナルの短編アニメーション「水グモもんもん」に登場する「ミズグモ」も飼育されています。世界で唯一水の中で暮らすクモの姿、形、おしりの気泡や生活の様子をじっくり観察することができます。公園の散策を楽しみながら、水生植物園に立ち寄るのはいかがでしょうか。



季刊トライホークス 2025年 | 79号

発行日……2025年6月1日 | 発行人……中島清文

発行所……徳間記念アニメーション文化財団
東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館

編集……石光紀子 小泉奈里子 | デザイン……川島弘世

印刷……TOPPANクロレ株式会社 | 非売品



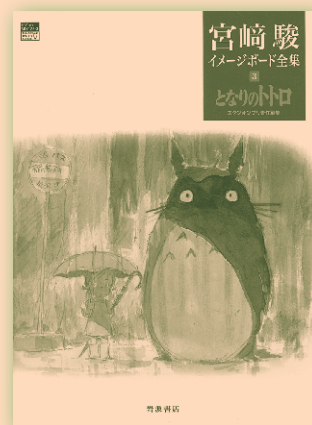
宮崎 駿イメージボード全集

2024年12月より「宮崎駿イメージボード全集」が刊行開始となりました。イメージボードとは、作品世界を探るために、そしてイメージが固まった世界をスタッフに伝えるために描かれるものです。鈴木プロデューサーは「宮崎駿が映画を作る時の大きな特徴は、まずイメージボードを描くということだ。イメージボードには映画に必要な情報、時間・空間・キャラクターの表情・性格・動きが全部入っている」と語ります。

現在「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」が刊行されており、今年の夏には第4巻「ナウシカ前史」が発売予定です。各巻末には、この全集に向けて新たに収録された鈴木プロデューサーのインタ

ビューが掲載されており、当時の逸話や絵にまつわる話が語られています。収録された絵は原画と変わらぬ色の再現を目指し、絵のサイズは原寸、もしくは原寸に近い形で掲載されています。宮崎監督の作品への思いのたけを読み取っていただくために、スタジオジブリが保管しているイメージボードが全て集められました。未発表の絵も含め、イメージボードだけを集めた画集はこのシリーズが初めてです。

今後は劇場長編アニメーションだけでなく、短編映画「On Your Mark」やジブリ美術館オリジナル作品、テレビアニメ作品などが収められた画集が続刊として発売されていく予定です。どうぞご期待ください。



宮崎駿イメージボード全集3
となりのトトロ
スタジオジブリ責任編集
岩波書店 6,380円



©黒澤義教

石津ちひろ

Chihiro Ishizu

私を詩へと 導いてくれた本

「しんぶんし」「たけやぶやけた」のように、前から読んで後ろから読んで同じ文字列になる言葉や文章を回文といいます。『まさかさかさま動物回文集』をはじめ、石津さんの作られたなぞなぞや詩は、ひとつひとつ声に出して読みたくなります。音の響き、リズム、言葉のひとつひとつをじっくり楽しんでいただきたいです。

* * * * *

幼 幼稚園に通っていた頃から、家の本棚に並んでいる「少年少女世界文学全集」のうち、気に入ったものを選んで、ページをめくるのが好きでした。なかでも繰り返し読んでいたのが、『アンデルセン童話集』、『あしながおじさん』、それに『幸福な王子』などの翻訳作品でした。

中学2年生の夏休み、1ヶ月ほど入院生活を送ったことがありました。その際、叔母が私に一冊の詩集を手渡してくれたのです。それは新川和江氏が編集した、〈世界の詩のアンソロジー〉でした。そこには、高村光太郎や宮沢賢治や中原中也から、ヴェルレーヌやリルケやカール・ブッセにいたるまで、さまざまな国の詩人の作品が掲載されていました。最初は目についた詩をさっと読んでいたのですが、しだいに一編ずつの詩を暗誦できるようになるくらい、じっくりと読むようになっていったのです。

のちに大学でフランス文学を専攻した私が、卒論のテーマとして選んだのは、詩人ボードレールの『パリの憂鬱』という作品でした。仏文の仲間には、詩を書いている人もいましたが、自分も書いてみようという気持ちにはなれませんでした。詩を書くことで自分の内面をさらけ出すような真似はしたくない、と考えていたのです。

卒業後は、両親に頼んでパリに留学をさせても

らうことにしました。そのパリで、ロラン・ジャカールやジャン＝ミッシェル・パルミエといった作家と知り合いになった一方で、それまで知らなかった回文という言葉遊びを日本人の友人から教えてもらったのです。

これが、私の初めての著書『まさかさかさま動物回文集』の出版にもつながっていったのでした。この絵本を形にすることができたのは、ほぼ出版経験のなかった私の作品を純粋に面白がってくださった、河出書房新社のY氏の英断によるものなのです。長新太さんのイラストが魅力的だったからでしょうか、予想以上に多くの人の手に届けることができました。以来、『まさかさかさま』を見たという編集者の方たちより、絵本の依頼が少しずつ来るようになったのでした。

この当時わが家の近くで、「谷川俊太郎——詩人まどみちおについて語る」というイベントが行われました。その折、家が近所だからという理由で、私に対談相手として駆り出されることになったのです。このイベントに備えて、およそ2ヶ月間、谷川さんの詩作品と合わせて、ただひたすら『まど・みちお全詩集』を読みつづけました。

まどさんの膨大な数の詩を読めば読むほど、その豊かさに驚かされるばかりでした。人や動物や植物など……万物への愛情から生まれた詩。日常

における「発見」から生まれた詩。そして言葉遊びをとことん追求した詩。これらすべての詩は、「生きる歓び」に満ちあふれているのです。なるほど、詩というのはこれほどまでに多彩で深い味わいのあるものなんだ！と感じ入ったのを覚えています。こんなふうに、まどさんの詩に浸り切った日々を送ったおかげで、谷川さんとの対談はなんとか無事に終えることができたのです。

この出来事から10年後、「言葉遊び」をテーマにした講演会に参加した際、絵本『なぞなぞのたび』に出てくる「なぞなぞ」のいくつかを来場者のみなさんにご紹介しました。すると、そのとき司会をしていらしたシンガーソングライターの新沢としひこさんが、ふっと口にしたのです。「石津さんのなぞなぞって、なんか詩みたいだね」と。私は内心照れながらも、とっさにこんなふうに答えました。「あら、知らなかった？ 私って詩人なの。詩を書かない詩人なの……」

しばらくして、このとき会場にいらしていた理論社の編集者・Yさんより連絡がありました。なんと「詩集を作りませんか？」というのです。最初はためらっていた私でしたが、やがて書くだけ書いてみよう、と思うようになったのです。初めて詩に挑戦する私を支えてくれたのは、かつて夢中になって読んだ、ボードレールやヴェルレーヌ、そして中原中也やまどみちおの詩の断片だったのかもしれない。

「明日への希望が湧いてくるような詩集を作りたい」というYさんの期待に応えるべく、詩を書き始めたのですが、すぐに気づいたことがありまし

た。詩を綴るというのは、自分の内面をさらけ出すことではなかったのです。幼かった頃の私や、隣に住む少年、あるいは言葉に取り憑かれた老女など——の気持ちを代弁することだったのです。また、詩には言葉遊びと違って、何の制約もありません。そのことが私の心を解き放ってくれ、自由に書くことの喜びを再認識させてくれたのです。やがて1年が過ぎていき、詩集『あしたのあたしはあたらしいあたし』が誕生したのでした。

気がつく、詩を書くのが私の大切な仕事のひとつになっていました。そして数年前より、たとえ依頼がなくても、窓辺に座って詩を綴るのが私の日常となりました。

詩ってどこからやってくるのでしょうか。空からとつぜん、はらはらと舞い降りてくるのでしょうか？ それとも、心の奥底からふつふつと湧き上がってくるものなのでしょうか……？

いしづちひろ

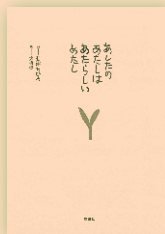
1953年、愛媛県生まれ。早稲田大学仏文科卒業。3年間のフランス滞在を経て、絵本作家、翻訳家、詩人として活躍中。絵本に『くだもの だもの』『おやおや、おやさい』『ねことワルツを』（以上、福音館書店）、『バレエのおけいこ』（ブロンズ新社）、『あのねこは』（フレーベル館）など。訳書に『あおのじかん』（岩波書店）、『マイロのスケッチブック』（鈴木出版）、『リサとガスパール』シリーズ（河出書房新社）など多数。

トライホークスの本 まさかさかさま動物回文集

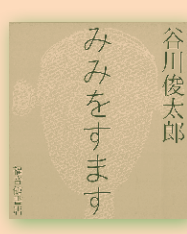
文…石津ちひろ
絵…長 新太
河出書房新社
1,100円



まど・みちお全詩集
編…伊藤英治
理論社 7,700円



あしたのあたしは
あたらしいあたし
詩…石津ちひろ
絵…大橋 歩
理論社 1,650円



みみをすます
詩…谷川俊太郎
絵…柳生弦一郎
福音館書店 1,760円

- ◆ 少年少女世界文学全集35
アンデルセン童話集(北歐編1)
少年少女世界文学全集15
子じか物語 白いきば あしながおじさん
(アメリカ編5)
少年少女世界文学全集7
宝島、フランダースのいぬ
幸福な王子 ほかに編(イギリス編4)
講談社 絶版
- ◆ なぞなぞのたび
なぞなぞ…石津ちひろ 絵…荒井良二
フレーベル館 1,485円
- ◆ めの まど あけろ
文…谷川俊太郎 絵…長 新太 福音館書店 990円
- ◆ ほんとうのじぶん
詩…石津ちひろ 絵…加藤久仁生 理論社 1,430円

本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。
トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にしていただけたら嬉しいです。

時計坂の家

祖父の家がある汀館^{みぎわだて}に行き、そこで過ごした10日あまりの日々は12歳のフー子にとって忘れ得ぬ、特別な時間になりました。従妹のマリカに誘われ訪れた汀館で、フー子は久しぶりに彼女と再会し、マリカの母方の従兄だという映介にも会います。

海からまっすぐ伸びた坂道は時計塔に続き、その時計塔の先に祖父の家がありました。マリカの誘いが嬉しくて勢よく来てしまったものの、フー子はおじいさんと数えるほどしか会ったことがありません。ここに来たのは迷惑だったかもしれないと不安になり、最初はおじいさんを近寄り難く感じていましたが、おじいさんの言葉にうそやおせじが無いことを感じ、そばにいたことがだんだんと居心地よくなっていきます。

ある時フー子は階段の踊り場にある窓の向こう、かつて物干し台だった場所に、あるはずのない緑の園を見つけます。そこは祖母が落ちて死んで以来、固くドアを閉ざっていた場所でした。けれども、実際には祖母は死んだのではなく行方不明だったのです。この庭と行方不明の祖母は関係があるのではないかと、フー子はこの時計坂の家に興味があったという映介と一緒に、不思議な庭や祖母のことについて調べることにしました。2人は当時を知る人たちに話を聞きます。顔も名前も知らなかったおばあさんが、少しずつ形になって見えてくるような感じです。そして、30年以上前に何が起こったのかもだんだんとわかってきたのです。

12歳のフー子にとって、年齢や性別はもちろん、自分とは違う考えや感じ方に触れることは、新鮮であり、驚きでもありました。そして、初めてのひとり旅や時計坂の家で過ごしたこと、別の世界へと続く扉、秘密を共有できる仲間を得て一緒に謎を追うこと……、この夏のひと時は日常では味わえない体験でした。フー子の成長が瑞々しく描かれ、たくさんのエピソードも重なり合って私にとっても忘れられない一冊となりました。



時計坂の家
著…高橋方子
絵…千葉史子
福音館書店 2,090円

マダガスカルの子供の昔話より

太陽と雲とラビナラ

昔々、人間がひとりもいなかった頃のことです。空の高いところには天国があって、そこには3人のむすめがいました。1番上の娘は太陽で、2番目は雲、そして末の娘はラビナラでした。1番上の姉むすめは、2人の妹たちに「天国のはしっこで遊んではだめ。はしっこから落ちたら2度と戻って来られないからね」と言い聞かせていました。

ある時、雲とラビナラが2人で遊んでいました。天国中かけまわって、とうとう天国のはしっこに来てしまいました。ラビナラが天国のはしっこから下をのぞいているとき、雲はふざけてラビナラをどんと押ししてしまったのです。ラビナラははるか下の大地に根付いて動けなくなってしまいました。「雲のお姉さん、助けて」雲は妹を助けようと飛び降りましたが、大地まで降りることも、天国に戻ることもできず、真ん中でとまってしまったのです。姉の太陽がかけつけましたが、どうにもできませんでした。そこで、太陽は妹のために光で照らし、雲は雨をふらせて、妹に水をやりました。今でも雲は空に、太陽は空の高いところにいて、大地に根をはる妹のラビナラの世話をしているということです。

マダガスカルはアフリカ大陸南東の海岸から400キロメートル離れた島国です。ラビナラというのは、扇のように枝が広がる大きな木です。太陽と雲、そして大地に根を張るラビナラ、自然を語る昔話は雄大です。



世界の女の子の昔話
再話…中脇初枝
偕成社 1,540円